

ディーゴ ガイド



2026.9.28-10.4

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II
Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1〜3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

16:7 その日、その時、初めてダビデはアサフとその兄弟たちを任命して、このように【主】に感謝をささげさせた。

16:8 【主】に感謝し、御名を呼び求めよ。そのみわさを諸国の民の間に知らせよ。

16:9 主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわさを語れ。

16:10 主の聖なる御名を誇りとせよ。【主】を慕い求める者たちの心よ、喜べ。

16:11 【主】とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。

16:12 主が行われた奇しいみわさを思い起こせ。その奇跡と御口のさばきを。

16:13 主のしもべイスラエルの裔よ。主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。

16:14 この方こそ、私たちの神、【主】。そのさばきは全地にわたる。

16:15 心に留めよ。主の契約をとこしえに。命じられたみことばを、千代までも。

16:16 それは、アブラハムと結んだ契約。イサクへの誓い。

16:17 主はそれをヤコブへの定めとして立てられた。イスラエルへの、永遠の契約として。

16:18 そのとき主は言われた。「わたしは、あなたにカナンの地を与える。あなたがたへのゆずりの地として。」

16:19 そのころ、あなたがたの数は少なく、実にわずかで、そこでは寄留者であった。

16:20 彼らは、国から国へ、一つの王国からほかの民へと渡り歩いた。

16:21 しかし主は、だれにも彼らを虐げさせず、彼らのために王たちを戒められた。

16:22 「わたしの油注がれた者たちに触れる

な。わたしの預言者たちに危害を加えるな。」

詩篇はダビデが創作または編纂したのですが、その詩篇の中に歌えられている内容がここにも記されています。

主の臨在を前にして、私たちは何といたっても賛美をすべきです。賛美は私たちの喜びとなり、力となり、希望となります。ここではまず王である主と、その民イスラエルの関係が表わされています。

ダビデは自分の王位のために、人々を自分につけようとはしませんでした。歴史上多くの王は自分の功績をたたえさせるのですが、ダビデは神をたたえさせたのです。

自分よりも神がたたえられるようにしましょう。お世話した人が、自分の親切を忘れても、神様に感謝しているようを見たら、満足しましょう。それを誇りとしましょう。そうすることによって、あなたはダビデのように安泰です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



29日 火曜

歴代Ⅰ



16:23 全地よ、【主】に歌え。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。
16:24 主の栄光を国々の間で語り告げよ。その奇しいみわざを、あらゆる民の間で。
16:25 【主】は大いなる方、大いに賛美される方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。
16:26 まことに、どの民の神々もみな偽りだ。しかし【主】は天をお造りになった。
16:27 威厳と威光は御前にあり、力と喜びは御住まいにある。
16:28 もろもろの民の諸族よ、【主】に帰せよ。栄光と力を【主】に帰せよ。
16:29 御名の栄光を【主】に帰せよ。ささげ物を携えて、御前に来たれ。聖なる装いををして、【主】にひれ伏せ。
16:30 全地よ、主の御前におののけ。まことに、世界は堅く据えられ揺るがない。
16:31 天は喜び、地は小躍りせよ。国々の間で言え。「【主】は王である」と。
16:32 海とそこに満ちているものは、鳴りとどろけ。野とそこにあるものは、みな喜び躍れ。
16:33 そのとき、森の木々も喜び歌う。
【主】の御前で。主は必ず、地をさばくために来られる。
16:34 【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。
16:35 言え。「私たちの救いの神よ、私たちをお救いください。国々から私たちを集め、救い出してください。あなたの聖なる御名に感謝し、あなたの誉れを勝ち誇るために。」
16:36 ほむべきかな、イスラエルの神、

【主】。とこしえから、とこしえまで。それから、民はみな「アーメン」と言い、

【主】をほめたたえた。
祝福するために戻って行った。

神様の臨在を前にして、ダビデは王たる自分よりも神様がたたえられることを命じました。その内容は、始めには神様とイスラエルの民の関係でしたが、ここでは神様と異邦人の関係について歌われています。

私たちににとってはノンクリスチャンの人々との関係として適用できるでしょう。もちろん伝道が必要であり、そのための信頼関係も不可欠ですが、ここでは賛美によって前進しています。すなわち、「国々の民の諸族よ。主にささげよ。」「天は喜び、地は、こおどりせよ。国々の中で言え。主は王である。」とあるように、それは命令や宣言の形で表わされます。

ということは賛美は前進であるということがわかります。祈りと一緒にその賛美に主が働かれるのです。それを思うと、礼拝の賛美がいかに大切かが分ります。今はまだそのような兆候が見えていなくても、私たちは賛美によって主の愛の戦いに参戦するのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 水曜

歴代 I



16:37 ダビデはそこに、【主】の契約の箱の前にアサフとその兄弟たちをとどめおき、毎日の日課として、常に箱の前で仕えさせた。

16:38 オベデ・エドムとその六十八人の兄弟たちにもそのようにさせた。エドトンの子オベデ・エドムとホサは門衛とした。

16:39 祭司ツァドクとその兄弟の祭司たちは、ギブオンの高き所にある【主】の幕屋の前にとどめおき、

16:40 すべて【主】がイスラエルに命じられた律法に書かれているとおりに、朝夕絶えず、全焼のささげ物の祭壇の上で【主】に全焼のささげ物を献げさせた。

16:41 また、彼らとともにヘマン、エドトン、さらにほかの選ばれた者たちが、「まことに主の恵みは、とこしえまで」と、【主】をほめたたえるために指名された。

16:42 ヘマンとエドトンの手には、ラッパとシンバル、また神の歌に用いる楽器があって、音楽を奏でた。エドトンの子らは門にいた。

16:43 民はみな、それぞれ自分の家に帰った。ダビデも自分の家族を祝福するために戻って行った。

「毎日の日課として、常に箱の前で仕えさせた。」とあります。ダビデは、この契約の箱を迎えるという喜びが、一過性のものではないように配慮しました。主の臨在は常にあるのです。

私たちも礼拝で心から力いっぱい賛美することが大切ですが、それが日曜だけにしないようにしなければなりません。それには心構えだけではなく、「日課」として、計画されたものである必要があります。

そのような日課を考えて実践しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 木曜

歴代 I



17:1 ダビデが自分の家に住んでいたときのことである。ダビデは預言者ナタンに言った。「見なさい。この私が杉材の家に住んでいるのに、【主】の契約の箱は天幕の下にある。」

17:2 ナタンはダビデに言った。「あなたの心にあることをみな行いなさい。神があなたとともにおられるのですから。」

17:3 その夜のことである。次のような神のことばがナタンにあった。

17:4 「行って、わたしのしもべダビデに言え。『【主】はこう言われる。あなたがわたしのために、住む家を建てるのではない。」

17:5 わたしは、イスラエルを連れ上った日から今日まで、家に住んだことはなく、天幕から天幕に、幕屋から幕屋に移ってきたのだ。」

17:6 わたしが全イスラエルと歩んだところどこでも、わたしが、わたしの民を牧せよと命じたイスラエルのさばきつかさの一人にでも、「なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか」と、一度でも言ったことがあっただろうか。』

17:7 今、わたしのしもべダビデにこう言え。『万軍の【主】はこう言われる。わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場から取り、わが民イスラエルの君主とした。」

17:8 そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにいて、あなたの前であなたのすべての敵を絶ち滅ぼした。わたしは地の大いなる者たちの名に等しい名を、あなたに与えてきた。」

17:9 わが民イスラエルのために、わたしは一つの場所を定め、民を住まわせた。それ

は、民がそこに住み、もはや恐れおののくことのないように、不正な者たちも、初めのころのように、重ねて民を抑圧することのないようにするためであった。

17:10 それは、わたしが、わが民イスラエルの上にさばきつかさを任命して以来のことである。こうして、わたしはあなたのすべての敵を屈服させたのである。今、わたしはあなたに告げる。【主】があなたのために一つの家を建てる、と。

17:11 あなたの日数が満ち、あなたが先祖のもとに行くとき、わたしはあなたの息子の中から、あなたの後に世継ぎの子を起こし、彼の王国を確立させる。

17:12 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしは彼の王座をとこしえまでも堅く立てる。

17:13 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。わたしの恵みを、わたしはあなたより前にいた者から取り去ったが、彼からはそのように取り去ることはしない。

17:14 わたしは、わたしの家とわたしの王国の中に、彼をとこしえまでも立たせる。彼の王座はとこしえまでも堅く立つ。』」

17:15 ナタンはこれらすべてのことばを、この幻のすべてを、そのままダビデに告げた。

ダビデにはこのとき勢いがありましたから、神殿を建てるのには絶好期であったでしょう。もしも彼に謙遜がなかったら、主に聞かずに勝手に建てていたことでしょう。しかし彼は事業よりも主が大切でした。

主はダビデに神殿建築を許さなかったのは、主のダビデへの慈しみがあったのでしょうか。それにもまして王国を確立することが優先されたとも思われます。しかし何よりも主は、ダビデのこの信

仰を見てとって、そこにご自身を現しなされるとお考えになったのではないのでしょうか。神殿は見えるものですが、主はダビデの心の内に住まわれたのです。さらには彼の人生、そして子々孫々の中に住まわれたのです。それだけでなく、彼の子孫からイエス様が誕生しました。

信仰を表しましょう。主が喜んで住んでくださる、謙遜な主の住まいとなりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 金曜

歴代Ⅰ

17:16 ダビデ王は【主】の前に出て、座して言った。「神、【主】よ、私は何者でしょうか。私の家はいったい何なのでしょう。あなたが私をここまで導いてくださったとは。

17:17 神よ。このことがあなたの御目には小さなことでしたのに、あなたはこのしもべの家について、はるか先のことまで教えてくださいました。神、【主】よ、あなたは私をすぐれた者として見てくださいます。

17:18 あなたのしもべに与えられた誉れについて、ダビデはこの上、何を加えて、あなたに申し上げることができのでしょうか。あなたはこのしもべをよくご存じです。

17:19 【主】よ。あなたはこのしもべのために、そしてみこころのままに、この大いなることのすべてを行い、この大いなることをすべて知らせてくださいました。

17:20 【主】よ。私たちが耳にするすべてにおいて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はいません。

17:21 また、地上のどの国民があなたの民イスラエルのようでしょうか。神ご自身が行かれて、ご自分の民として贖い、大いなる恐るべきみわざによってご自分の名を置き、エジプトから贖い出したあなたの民の前から異邦の民を追い払われたのです。

17:22 そして、あなたの民イスラエルを、とこしえまでもあなたの民とされました。

【主】よ、あなたは彼らの神とされました。

17:23 今、【主】よ。あなたが、このしもべとその家についてお語りになったことばを、とこしえまでも真実なものとし、お語りになったとおりに行ってください。



17:24 こうして、あなたの御名がとこしえまでも真実で、大いなるものとなり、『イスラエルの神、万軍の【主】は、イスラエルの神である』と言われるように。あなたのしもべダビデの家が、御前に堅く立ちますように。

17:25 わが神よ。あなたはこのしもべの耳を開き、しもべのために一つの家を建てると告げられました。それゆえ、このしもべは御前で祈る勇気を得たのです。

17:26 今、【主】よ、あなたこそ神です。あなたはこのしもべに、この良いことを約束してくださいました。

17:27 今、あなたは、あなたのしもべの家を祝福することを良しとされ、御前にとこしえに続くようにしてくださいました。

【主】よ。あなたが祝福してくださいました。あなたのしもべの家はとこしえに祝福されています。」

「神、主よ。私がいっぱい何者であり、私の家が何であるからというので、あなたはここまで私を導いてくださったのですか。」とあります。これはダビデの感謝の祈りですが、とても大切な内容です。感謝のときに、自分が頑張ったからとか忍耐したからと言いつつ、感謝する人もありますが、本当の感謝はこのダビデのような祈りです。

私たちは主から恵をいただくほどのことは何ひとつできない者なのです。それを常に念頭に置いて感謝しましょう。また感謝を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 土曜

歴代 I



18:1 その後のことである。ダビデはペリシテ人を討って、これを屈服させ、ガテとそれに属する町々をペリシテ人の手から奪い取った。

18:2 彼はまたモアブを討った。モアブはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。

18:3 ツォバの王ハダドエゼルが、ユーフラテス河流域にその勢力を確立しようとして出て行ったとき、ダビデはハマテに出て、彼を討った。

18:4 ダビデは、彼から戦車一千、騎兵七千、歩兵二万を取った。ダビデは、そのすべての戦車の馬の足の筋を切った。ただし、そのうち戦車百台分の馬は残した。

18:5 ダマスコのアラムがツォバの王ハダドエゼルを助けに来たが、ダビデはアラムの二万二千人を討った。

18:6 ダビデはダマスコのアラムに守備隊を置いた。アラムはダビデのしもべとなり、貢ぎ物を納める者となった。【主】は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。

18:7 ダビデは、ハダドエゼルの家来たちが持っていた金の丸い小盾を奪い取り、エルサレムに持ち帰った。

18:8 またダビデは、ハダドエゼルの町ティブハテとクンから、非常に多くの青銅を奪い取った。これを用いて、ソロモンは、青銅の「海」や柱、および青銅の器を作った。

ダビデの連戦連勝について書かれていて、気持ち良いほどです。何故彼が勝てたかという、それは「主は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。」からです。主が勝利を与えなければ、たとえ

こちらに何倍もの力があっても、失敗するものです。

それは仕事でも勉強でも同じで、勝利・成功は主が与えてくださるのだと肝に銘じましょう。その点、ダビデは戦利品を「エルサレムに持ち帰った。」とあります。ダビデは主の栄光のために戦ったのです。ここにも勝利・成功の秘訣があります。

自分の実力だけで成功できると勘違いして、神様を二の次にしてしまわないように、ダビデの信仰の真実に倣いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18:9 ハマテの王トウは、ダビデがツォバの王ハダドエゼルの全軍勢を打ち破ったことを聞いた。

18:10 彼は、息子ハドラムをダビデ王のもとに遣わし、安否を尋ね、ダビデがハダドエゼルと戦ってこれを打ち破ったことについて、祝福のことばを述べた。ハダドエゼルがトウにしばしば戦いを挑んでいたからである。トウは、金、銀、青銅の、あらゆる器を贈り物とした。

18:11 ダビデ王は、それらもまた、彼がすべての異邦の民、すなわちエドム、モアブ、アモン人、ペリシテ人、アマレクのもとから運んで来た銀や金とともに、【主】のために聖別した。

18:12 また、ツェルヤの子アビシャイは、塩の谷でエドム人一万八千人を討って、

18:13 エドムに守備隊を置いた。こうして、全エドムはダビデのしもべとなった。【主】は、ダビデの行く先々で、彼に勝利を与えられた。

18:14 ダビデは全イスラエルを治め、その民のすべてにさばきと正義を行った。

18:15 ツェルヤの子ヨアブは軍団長、アヒルデの子ヨシャファテは史官、

18:16 アヒトブの子ツァドクとエブヤタルの子アビメレクは祭司、シャウシャは書記、

18:17 エホヤダの子ベナヤはクレタ人とペレテ人の上に立つ者、ダビデの息子たちは王の側近であった

「ダビデ王は、それをもまた、彼がすべての異邦の民、すなわちエドム、モアブ、アモン人、ペリシテ人、アマレクのところから運んで来た銀や金と

もに、主に聖別してささげた。」とあります。ダビデはあくまでも神様にささげました。

これはダビデの謙遜と目的の表れです。神様がなくては自分は勝てなかったと、彼は自分の權威を神様にささげました。多くの王が自分の力と誇示するのと対比的です。

私たちも勝利の秘訣は、自分の力ではないということを表わすことにあります。ですから勝利の証も、主がたたえられるようにしなければなりません。感謝も自分ではなく主に向けられるようにしなければなりません。神の群れのリーダーも、自分に従うのではなく、神に従うようにしなければなりません。親も自分従うよりも神に従う子を育てる必要があります。

それらは謙遜というよりも当たり前姿です。なぜなら、全ては神様がやってくさるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

